

令和6年度 子どもの権利トークイベント

- 1 日 時 令和7年2月8日（土）8時15分～12時45分
- 2 場 所 青森市役所駅前庁舎1階 駅前スクエア
- 3 出席者 子ども会議委員13名、子どもサポーター1名、子どもの権利擁護委員3名、事務局4名、一般参加者11名
- 4 活動内容 子どもの権利トークイベント
- 5 開催概要

「子どもの権利」のさらなる周知のため、トークを通して楽しく学び、体験してもらう子どもの権利トークイベントを開催しました。

はじめに

司会の小学生委員から、子どもの権利擁護委員の紹介とイベントの開催趣旨、タイムスケジュールなどの説明がありました。

アイスブレイク

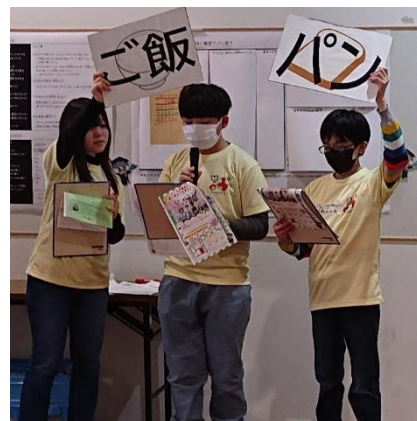
次に、参加者の緊張をほぐすために、昨年と同じ、1人1枚ずつ配られた具材が書かれたカードを使って、5種類の具材を集めて煮干しラーメンを完成させる「煮干しラーメンを作ろう！」というアイスブレイクを行いました。制限時間である5分以内に全グループが成功し、全員が煮干しラーメンを作ることができました。

ディベート

ディベートの説明とルールの確認、そして委員が前回の会議で練習した「朝ご飯はご飯派？パン派？」のテーマで実演を行いました。全員でディベートの流れを理解できたところで、テーマ決めを行いました。候補の4つのうち、「ウソは悪いこと？良いこと？」と「時間とお金、大事にするのはどっち？」の2つに決まり、それぞれ自分が話したいと思うテーマに分かれました。

〈グループ① ウソは悪いこと？良いこと？〉

悪いことだと考えるグループでは、「ウソつきは泥棒の始まり」や「1つのウソを本当らしくするためには、7つのウソが必要になる」などことわざやルターの名言を使って、ウソが悪いことだと皆が知っており、何よりもウソをついた罪悪感に長期的に悩まされると主張しました。良いことだと考えるグループでは、ウソをつく場面を考え、メリットは3つあるとし、①自分を守ることができる、②関係を良くすることができる、③相手を傷つけるのを避けることができると主張しました。



質問タイムでは、「相手のためを思ってウソをついたとしても、ウソがバレてしまえば、信頼がなくなり、良い関係性を築けないのでは？」や『『ウソをつく』と罪悪感で辛くなる』と言いましたが、ウソをつくことでその場をしのぐことができるので、辛くないのでは？」などたくさんの意見が出ました。



最後に、審判の沼田委員から「自分も含めて皆が人生で1回はウソをついたことがあると思うし、それで怒られた経験もあると思う。ウソは悪いことだとみんな知っているため、今回はウソが良いことだと考えるグループは、元々不利な立場だった。そういう時は、具体的な場面を提示できると審判が納得できると思う。」と、ウソは良いことだと考えるグループの主張が弱かったとし、ウソは悪いことだと考えるグループの勝ちを宣言しました。最後に、「両グループともみんなで協力して審判を説得する姿勢が見られとても良かった。このトークゲームの経験を活かして、普段の生活でも身近な事柄について真剣に考えてみてほしいと思う。」とコメントをいただきました。

〈グループ② 時間とお金、大事にするのはどっち？〉

時間の方が大事だと考えるグループでは、時間はお金と違って全員に平等で差別されないことや、時間があれば知識を身につけることができ、知識があれば悪いことから自分を守ることができることをアピールしました。お金の方が大事だと考えるグループでは、病気を治したり、ご飯を食べたり、服を買えたりなどお金がなければ生きていけないとアピールしました。

質問タイムでは、「知識をつけるためには塾などに行くことがあり、その場合もお金がかかるし、時間はお金で買えるのでは？」や「時間がないと知識を身につけられないため、知識はないのにお金があると詐欺にあう可能性が高くなるのでは？」などの意見が出ました。

最後に審判の関谷委員から、「時間派は説明が難しく、お金派はどちらかというと説明しやすいため、時間派はどうやって説明するのかなど思っていた。お金派は人数が少ない中でよく話し合っていたため、今回はお金派の勝利。お金派に軍配をあげたが、時間派も良く頑張っていたと思う。難しいことにチャレンジしていてどちらのグループも素晴らしい。」と講評をいただきました。



ディスカッション

休憩後は、2グループに分かれてディスカッションを行いました。テーマは、「幸せって何だろう？」に多数決で決まり、それぞれのグループで決まった役割のもとディスカッションを進めました。最後にそれぞれのグループから話し合った内容について発表してもらいました。

1つ目のグループでは、寝ることやご飯を食べることなどの当たり前の生活ができることや、友達や家族がいて、一緒に過ごすことができることなどたくさんの意見が出ましたが、出た意見の多くに

共通することを考え、自分のやりたいことができる時間があることが大切で、幸せには「時間」が大切であるとまとめることができました。

2つめのグループでは、例えばゲームのガチャで良いものが当たったり、受験に合格したり、アイスを食べたりなど幸せは1つにまとめることができないが、幸せと感じられることこそが幸せであり、普段の生活の中にありふれているという結論になりました。

両グループともに、「幸せ」についてたくさんの意見が出て、進行の役割を担った人は、進め方やまとめ方に苦戦する場面も見られましたが、みんなが自分の意見を他の人に伝えることができたり、人それぞれの幸せの感じ方について、自分では思いつかない意見について考えさせられたりと話し合いを楽しんでいました。

最後に、子どもの権利擁護委員3名から、「頭や心を使って“思考”している姿が、皆さんかっこよかった。」や「“自由に考えてそれを相手に伝えること”は権利として必要なことです。それを今日は実践できていて良かった。」と講評をいただきました。



お楽しみコーナー

最後に、お楽しみコーナーとして、ワードビンゴ、けんりはかせを探せ、スノードームづくりを行いました。それぞれのゲームで獲得したポイントとアンケートに回答するともらえる10ポイントを合わせた合計ポイントに応じて景品がもらえます。

どのコーナーも参加者に楽しんでもらうことができたので良かったです。



次回の会議で、アンケート結果を用いてトークイベントの振り返りを行います。